

神戸大学海技教育センター 実習船「白鷗」の体験乗船会を実施

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として、会員会社をはじめ、関係団体と連携し、商船や造船所の見学会などを「船ってサイコ〜」と題し実施し、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力をいれております。

今般、同プロジェクトの一環として、神戸大学大学院海事科学研究科・廣野准教授、藤本准教授のご協力のもと、7月29日（土）午前・午後の実習船「白鷗」の体験乗船会を開催し、抽選にて当選した小学生の親子など計28名が参加しました。

当日は、様々な機能を有する神戸港を航行し、300mを超える大きなコンテナ船やコンテナの積み降ろし、フェリーとそれに補油するバンカー船などを間近で見ることができたほか、廣野准教授からは、船は人々が生活する上で必要不可欠であることをわかりやすく説明していただきました。また、水先人がコンテナ船からタグボートへ梯子を伝って降りてくる姿や、川崎重工業・神戸工場の浮きドックに揚げられた潜水艦も見ることができ、滅多に目にすることのない光景に、子供達をはじめとする参加者らは大興奮している様子でした。



▲神戸港を航行している模様

さらに、藤本准教授のサポートのもと、操船の実体験に子供達たちは大喜びでチャレンジすることもでき、船を身近に感じていただくことができました。参加者からは「船を操作させてくれるのが楽しかった」「いろいろな船を海側から見ることで楽しかった」などのコメントが寄せられ、海から見る普段とは異なる神戸港の姿を楽しんでいただけた様子でした。

当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。



▲操船する子供とその順番を待つ子供たち



▲コンテナ船の真横を通る「白鷗」